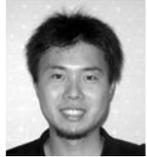


がまごおり

## 若者サポートステーション



鈴木康生  
☎ 67・3201

ニートって言うってもね③

働いていない状況での悩み・苦しさは人それぞれ。だから、そんな時は、他人の力を借りてもいいと思います。一人で抱え込むのは到底難しい問題というのは誰にでもあります。そのため、もし、働いていない、もしくは家にこもりがちのお子さ

んをもつ保護者の方は「悩んでいるなら打ち明けてほしい」とお思いになられるでしょう。しかし、この〰心配する〰表現方法によって相手の反応が異なることがあります。

あるサポートステーション利用者から聞いてみました。その方は長い間自宅にこもっていました。こもっていた時に親に言わ

れてうれしかった言葉は「これからどうしたいか?」と聞かれた時だったそうです。逆に言われると嫌な言葉は「ああしなさい、こうしなさい」、「こういうのがいいと思う」と決めつけたり、押しつけたりする言葉だろうと話しました。言われるより言われない方が負担は少ないとも言っていました。

この方の両親は、ともに普段は何も言わず、本人と特に深い話はしない関係だったそうです。しないというより、打ち明けるまで聞かない、といった方

が正しいでしょうか。相手を主役にした『待つ』表現方法です。それができず『思い込み』で心配すると本人が悩みを伝える環境づくりができなくなってしまうと私は思います。

主役はあくまでも悩んでいる本人です。その人の人生です。私たちは名脇役になることが大切です。



学芸員 小林龍二

竹島水族館  
☎ 68・2059

「これからの水族館人は」

「これからの水族館人はルックス(容姿)が大切になる」という話を某水族館の方と話しました。他の水族館へ行っても飼育員は、真面目に水槽を見ないで、おかしな話ばかりしています。昔と違って、現在の飼育員は、ジメジメした裏方で黙々と魚を

相手に作業するのではなく、積極的にお客さんの前に出たり、テレビに出たりすることが求められます。そのため、美男・美女の飼育員が必要だということでした。たしかに話をした某水族館では、顔で採用しているのではないかと、というくらい美人な飼育員が多かったです。これは男性飼育員しかいない我が水

族館から見ると、ウラヤマシイ。しかし、魚のことを真面目に細かく教えてくれる飼育員より、魚のことに少々いい加減でも、ハンサムで笑顔が素敵な飼育員の方が人気があるのは、気持ちとしては何か複雑です。

そんな話をして帰ってきたのですが、私もこの連載には当初アシカの写真でごまかそうかと思っただのに顔写真が載っているし、毎日アシカショーなどでお客さんの前に出ています。寝グセはしっかり直して、服や長靴も清潔にせねばならんです。

館内で「広報の写真よりハンサムじゃん」と言われ、「ハッハッハ、どうだ、わかってくれたか」と話す時もあるのですが、そう言ってくれるのは大抵、孫がいるような年齢の女性なのです。

仕事が終わったら、後輩たちと本屋さんに行つて、飼育技術とは別に、磨きをかけるためにオシャレ雑誌でも買って帰ってルックスの勉強でもしようかなと思う今日この頃です。

